

課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・ (好きなもの、ことに対して) もっと教えて? それはどういう意味? たとえば? ・ (課題が見つからない生徒に対して) 楽しいことは?" ・ 調べたら解決するんじゃない? (それじゃあ探究にならないことに気づかせる) ・ どうなったら課題が解決することになるのかな? (定義づけ) ・ 編集が上手ってどういうこと? (定義づけ) ・ 他の人たちも興味・関心を持てるかな? (他者の役に立つか、という視点を持たせる) ・ どうやって地域・社会に役立てる?
情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> ・ どんな情報が必要? ・ 仮説を検証するために何 (どうすること) が必要? ・ 実際にやってみれば? ・ 誰に聞く? 何を聞く? ・ その質問 (検証) で必要な回答 (情報) が得られる? ・ 検証の条件は? ・ 比べるためにはどんな検証にする? ・ 十分な資料が集まった? ・ (1つの検証に対して) 何回検証した?
整理・分析	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検証十分だった? (問いを解決するために行った検証で十分な根拠になりますか?) ・ 検証結果から何がわかった? ・ この整理の仕方でもいいの? (検証の目的とのつながりを意識して整理するような声かけ) ・ 客観的に見て、全員が納得できる? ・ これ (整理・分析したこと) は、問いと仮説につながってるの? ・ 比べてみたら? (1つの実験だけではなく、複数回の実験などを行うことで、対比させる) ・ ○○を作ってみたら? (一つのゴールがないと次に繋がられないため、わかりやすいゴールとしてなにか実体のあるものを開発すればいいのではないかと提案した。—パーソナルカラーの探究でのカラー早見表など)
まとめ・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検証の結果分かったことは何? ・ この言葉でみんなわかる? ・ 分かりやすくするには? (表、グラフ、写真、動画、フォントの工夫等を引き出す) ・ みんなが自分につなげるためには何を伝える? ・ スライドは視覚的にわかりやすく、喋る内容はスライドに付け加えるようなイメージで

◆指導の仕方が分かった・指導力が向上した

【コーチング法、声かけ】

- ・課題の設定場面においての、コーチング方法
- ・テーマ設定について、本当に探究できる内容なのかを生徒に考えさせるような声かけを意識して行えた。
- ・問いと仮説を明確にして、実証の方法につなげる声かけ
- ・生徒に視点を与えたり思考を深めたりするための声かけ
- ・見通しが持てたり、生徒の探究例をたくさん見ることができたりする中で、アドバイスをするなど生徒への声掛けをどのようにしていけばいいかが少しずつわかってきました。
- ・自分の考えを押さえて、子どもの考えを引き出すような声掛けをすることが大切であるということ。

【探究に必要な知識・技能についての指導】

- ・検証方法の指導
- ・他者の提案に対して批判的に思考させることで、お互いに学びが深まった。
- ・探究のサイクルを2回繰り返すこと。
- ・中には自分の探究がどういう方向で進んでいくのかすらもわからず進めようとしている生徒もいたため、まずは自分がどのような探究をしたいかなどの方向性を決めることが必要であることがわかりました。
- ・生徒がどのように発表するか、何を元にして情報を整理するか等のプレゼンの準備の指導力が向上したと感じました。また、探究的な狙いと研究を関連させる整合性の重要性を改めて実感しました。

◆指導の仕方が分からなかった・指導がうまくいかなかった

【コーチングについて】

- ・テーマを決めることができなかつたりなかなか進めることができなかつたりする生徒に対して、どこまでこちらが踏み込み、どこまでは生徒から出てくるのを待つか、周囲との進み具合に差が出てくると余計に悩みました。
- ・子どもが納得のいくアドバイス？（明らかに探究になっていない場合に、修正させたい時）
- ・探究が行き詰った生徒に対して、どこまでコーチングを行い、どうしたら生徒が納得して進めることができるのか。

【探究に必要な知識・技能の指導について】

- ・検証をすることが目的となっており、検証結果からの考察がなかなか考えられない生徒に対して、誘導質問のようになってしまった。
- ・まとめるときの、表現方法
- ・引用、参考文献などの表記の統一・引用と参考文献の違い・クロームブックの活用スキル。

- ・探究のサイクルが回転していくという流れを頭ではわかっているが、それを生徒にイメージを持たせるにはどうしたらよいかわかりませんでした。

【「地域・社会」への還元について】

- ・生徒の進路や将来像、地域社会への還元につながるテーマと問いの設定。
- ・自分の興味・関心があることから、社会のために役に立つことへの移行のさせ方。
- ・「地域・社会」の課題を解決する、という視点を最後まで持ち続けて指導することができなかった。
- ・職場体験活動を PBL として発表する方法が、未だによく分かりません。その辺りをほかの県や学校をベースとして参考にする必要があると感じました。